

年 頭 所 感

職員の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

今年のお正月は、元旦に少し雨がぱらつきはしましたが、天気もまずまずで、皆様方には、御家族ともども、輝かしい新春を、健やかに迎えられましたことと、心よりお慶び申し上げます。

それでは、平成24年—2012年仕事始めに当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、何と申しまして、3月11日に発災した東日本大震災が、日本全土を大きく揺るがした1年でした。未曾有の大災害ですし、原子力発電所事故の影響も甚大で、未だ復興への道筋が確かなものとなっていません。多くの方々が仮設住宅で新年を迎えられるなど、厳しい状況が続いておりますが、本市といたしましても、被災された皆様が一日も早く平穏な生活を取り戻せますよう、被災地の復興に向け、必要とされるできる限りの支援を行ってまいりたいと思います。そして、我が国全体がこの国難とも言える事態を乗り越え、復活したと言えることができるように願っているところでございます。

このように大きな試練の年であった昨年でしたが、私は4月の統一地方選挙で再び市民の皆様の御信任を賜り、引き続き高松市長に就任させていただきました。再選以降、その重責を改めて痛感しながら、これまでの4年間に築き上げてきた確かな土台の上に立ち、同時にマニフェスト2011でお示した施策の実現を中心に市政運営に、全力で取り組んできたところでございます。

迎えた本年は、平成20年度から27年度まで8年間の「第5次高松市総合計画」の折り返しとなる、後半4年間のスタートの年となります。新たな第3期の「まちづくり戦略計画」に基づき、総合計画の最終年度27年度を見据えて、総合的かつ計画的な市政運営に努めてまいりたいと思います。

さて、折に触れ申し上げておりますとおり、私は、本市の未来像として、「創造性豊かな海園・田園・人間都市」というテーマを掲げております。そして、「マニフェスト20

11」では、そのような都市ビジョンを実現すべく、12の政策キーワードの下に掲げた60の施策を掲げ、その成果目標を明確にしながら取り組むこととしているところです。

特に本年は、高松市が「創造性豊かな海園・田園・人間都市」のブランドイメージを確立し、広く発信していくシティプロモーションに、積極的に取り組んでまいりたいと思います。シティプロモーションとはあまり聞き慣れない言葉かも知れませんが、地域の魅力を創造し、それを地域の内外へと情報発信し広めることで『地域イメージをブランド化』することです。観光客や転入者を増やすこと、さらには住んでいる市民に誇りや地元愛を根づかせることも大きな目的としています。市民の地元に対する愛着が高まれば、自ずからまちづくりに参加し、都市の発展に貢献しようとする動きが出てきます。観光客に対するホスピタリティの精神、お接待の心も生まれ、より強まることでしょう。そうなれば、一過性でなく持続的に都市が発展していく環境ができます。そのような循環型のシティプロモーションの展開により、観光振興や産業振興が図られ、地域社会の活性化や経済基盤の安定につながっていくことにもなります。

一昨年、予想を上回る大きな反響を呼んだ「瀬戸内国際芸術祭」は、来年3月から、春夏秋の季節ごとに会期を分け、エリアを拡大して開催されることが決定しています。これは、「高松国際ピアノコンクール」などとともに、芸術文化都市「アート・シティ高松」を内外に発信する絶好の機会となります。また、昨年、国内外から多数の盆栽愛好家が訪れた「アジア太平洋盆栽水石高松大会」も、本市の特産品を「高松ブランド」として印象付ける、大きな成果があったものと思います。

これらのイベントで得られた成果をより確かなものとして今後に生かし、効果的にシティプロモーションを展開していくため、この4月から、産業、ものづくり、観光、文化・スポーツ、国際などに関する施策を一元化する組織として、創造都市推進局を設置することとしています。この組織を中心として、高松の都市ブランドイメージの向上を積極的かつ効果的に図ってまいりたいと存じます。

さて、国においては、昨年4月いわゆる地域主権改革関連3法が成立し、中央集権体制を抜本的に改め、住民に身近な行政は、地方公共団体が自主的かつ総合的に広く担えるようにするとともに、地域住民が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組む

という、目指すべき方向性が示されているところでございます。

中でも、地方の長年の悲願であった国と地方の協議の場の法制化が実現したことは、大きな意義があると思っています。社会保障と税の一体改革など、地方行政に影響を及ぼす重要課題の円滑かつ着実な推進を図るためには、国の制度づくりの議論の場において、地域住民に身近な所で実際にサービスを設計し実行する地方自治体として、積極的に提言するなど、その責務を果たしていくことが重要であると考えております。そのため、私自身も高松市長として、また全国市長会や中核市市長会の副会長として、国に対ししっかりとすべきことは言っていきたいと思っております。

同時に、市の施策推進にあたっては、私自身が先頭に立って、市民の皆様の声に耳を傾けながら、「自治基本条例」や「自治と協働の基本指針」の考え方に則り、参画と協働による市民主体のまちづくりに取り組んでまいりたいと存じます。職員の皆さんにも、これまで申しあげていますように、常にアンテナを高くしながら、現場主義を徹底し、「情報公開の徹底」「コミュニケーションの活性化」「説明責任の全う」の3つの方法論を更に徹底して実践するとともに、様々な機会を活用して自らの感性を磨き、それを十分に働かせて、日々の業務に取り組んでいただきたいと思います。

昨年は、一部職員による不祥事が相次ぎ、市民の信頼を失う、誠に恥ずべき事態となりました。今年は何としても信頼回復の年にしなくてはなりません。

どうか皆さんには、市職員として最も大切な市民との信頼関係を、これ以上失うことのないよう、そして、以前にも増して、市民の信頼が得られるように、日々の職務において一人一人が十分に心掛け、励んでいただきたいと思います。

今年は辰年です。動物に当てはめると「竜」ですが、「竜」は十二支の中で唯一の想像上の動物です。「竜に九似あり」と言われるように他の動物の良いとこどりをしてつなぎ合わせた理想の動物とも言え、中国では皇帝のシンボルとなっていました。それにあやかって、今年は、理想を追い求める年に出来れば、とも思っています。

但し、竜頭蛇尾となることは、却って信頼を失うことにつながります。理想を追いながらも常に謙虚で、市民の声に耳を傾け、市民の理解を得ながら着実に物事を進めて行っていただきたいと思います。「画竜点睛^{がりょうてんせい}」という言葉もあります。その例えのごとく、それぞれの職務において物事の眼目を見失わず、物事をやり遂げる際の一番大切な最後

の部分は特に丁寧に細心の注意を払って取り組んでいただきたいと存じます。

最後になりましたが、今年一年が、高松市にとりまして、また、職員皆様方にとりまして、御家族ともども、輝かしく実り多き年となりますことを心から祈念申し上げまして、私の仕事始めの挨拶といたします。

どうか今年一年、よろしくお願いいたします。